



平成30年10月16日
海上保安庁

『荒天時の走錨等に起因する事故の再発防止に係る有識者検討会』の設置

海上保安庁では、荒天時の走錨等により、重要施設に甚大な被害をもたらすような事故の再発を防止することを目的として、有識者及び海事関係者等による検討会を設置します。

1. 目的

平成30年9月4日、台風21号が大阪湾付近を通過した際、荒天を避けるために錨泊していたタンカーが走錨し、関西国際空港連絡橋に衝突したことにより、同空港へのアクセスが制限されるなど、人流・物流等に甚大な影響が発生しました。

このため、海上保安庁としましては、有識者及び海事関係者等による検討会を設置し、荒天時の走錨等により、重要施設に甚大な被害をもたらすような事故の再発を防止するために必要な事項について検討していくことといたしました。

2. 検討会メンバー

(1) 有識者 (◎：座長)

- ◎河野真理子 早稲田大学法学学術院教授
- 北川佳世子 早稲田大学大学院法務研究科教授
- 木場 弘子 キャスター、千葉大学客員教授
- 庄司 るり 東京海洋大学大学院学術研究院教授
- 日當 博喜 海上保安大学校名誉教授
- 若林 伸和 神戸大学大学院海事研究科教授 (敬称略・五十音順)

(2) 海事関係者等

外国船舶協会、新関西国際空港株式会社、全国漁業協同組合連合会、全日本海員組合、日本海難防止協会、日本船主協会、日本船長協会、日本内航海運組合総連合会、日本水先人会連合会、日本旅客船協会

(五十音順)

3. 第一回検討会の予定等

日 時 平成30年10月24日（水） 10:00～12:00

場 所 国土交通省3号館11階特別会議室

議 題（案）

議題1 関西国際空港連絡橋へのタンカー衝突事故の概要

議題2 再発防止に係る論点整理